

大相撲〈宝富士関〉故郷に錦を飾る

大相撲で見事十両昇進を果たし、関取となった宝富士関(本名：杉山大輔、豊岡地区出身、伊勢ヶ濱部屋)が、このたび町を訪れ、報告や祝賀会出席など、故郷に久々に帰ってきました。

8月6日(金)には、伊勢ヶ濱親方、五所川原商業高校の恩師 葛西孝彦氏とともに町長を訪れ、町長に十両昇進の報告。宝富士関の「おかげさまで十両昇進ができました」との弁に対し、町長は「町を挙げて応援する。これからもがんばってほしい」と激励の言葉をかけました。



宝富士関は「まだ実感がないがうれしい。2年で十両に入るのが目標だった。今後は、早く幕内に入れるようがんばり、皆さんに喜んでもらえるような相撲をしたい」と今後の抱負を語りました。

宝富士を育てた伊勢ヶ濱親方は「これまでまじめにやってきた成果だ。だが、まだまだこれから。今がスタートです。それぞれの段階に一步一步進んで、目標の幕内目指してがんばってほしい」と先を見据えていました。

8月26日(休)には再び町を訪れ、今度は出身校に昇進の報告をし、夜には祝賀会に出席しました。

同日午前中に出身高校の五所川原商業高校で報告会を行ったあと、午後には武田小学校・中里中学校に到着。先に立ち寄った武田小学校では、「ようこそ先輩」と題された報告会が開かれ、宝富士関があいさつ。「勉強やスポーツなど何か1つ真剣に取り組んで、1日を大切にしてほしい。私も精進する」と子どもたちに語りかけました。

その後の質問タイムでは「1日どのくらいの稽古をするの?」「練習できつかったのは何?」などのほか、「優勝の賞品はどのくらい?」「好きな色は?」などの質問にも、関取はていねいに答えていました。

夕方5時から、町総合文化センター「パルナス」で町後援会の設立総会が行われ、正式に設立が承認されたあと、夜6時から昇進祝賀会に臨みました。

祝賀会に集まった人は約600人。立っている場もないほどの混雑ぶりで、宝富士関への期待の高さがうかがえます。宝富士関は、伊勢ヶ濱親方と一緒にすべての席をまわり、写真を撮ったり、握手攻めにあうなど、昇進の喜びに終始包まれていました。



8月15日(日)、成人式が町総合文化センター「パルナス」で行われ、新しく大人の仲間入りをする新成人の門出を祝いました。

今年の新成人は総勢163人で、このうち式典には105人が出席。始めに古川教育委員長が「大人になると権利と義務・責任が発生する。謙虚さを忘れず、夢に向かって進んでほしい」と式辞を述べ、町長は「これからの町は若い皆さんたちが背負う。その自覚を持って、がんばってほしい」とあいさつし、新成人を激励しました。



誓いの言葉を述べる鈴木慶治さん

最後に新成人を代表して鈴木慶治さんが「後悔しないよう日々を充実させ、将来像に近づけるよう努力している。今を大切に、これからの人生を着実に歩いていこうと思います」と誓いの言葉を述べました。

式典に参加していた成人の1人は「もっと大学で勉強し、社会や地元へ貢献できるようがんばりたい」と20歳の抱負を語っていました。

心新たに成人の誓い—成人式—

若い力で町に元気を注入

